



ギボシムシの仲間と思われる排泄物^{はいせつぶつ}

泡瀬干潟は、大潮時などで潮が大きく引くと、砂州^{さす}とよばれる砂浜や砂礫質^{されきしつ}の砂質の干潟が出現する。この砂浜や砂質の干潟を散策すると、たまに写真のようなモンブラン(ケーキ)の上にのっかっているような物体を目撃する。

このモンブラン様物体の下にすんでいる生きものは、半索動物^{はんさくどうぶつ}の腸鳃綱^{こう}(ギボシムシ綱)に属する生きものであり、細長い体形の柔軟性^{じゅうなんせい}に富む肉質の体をもち、浅海^{せんかい}の砂泥中に生息している。半索動物は、分類学的には私たち人間が属している脊椎動物^{せきついどうぶつ}やウニなどが属している棘皮動物^{きよくひどうぶつ}に近い仲間である。ギボシムシの体長は、数 cm から 2m 程度までと様々である。

神社仏閣^{じんじやぶつかく}などの欄干^{らんかん}の飾りである擬宝珠(ぎぼし)に前体部が似ていることから、ギボシムシの名前がついた。このギボシムシは、砂の中や表面にある有機物をエサとして、砂の上に、細長い砂を排泄している。私たち人間は、糞^{ふん}というと臭くて汚い物をイメージするが、それは他の生き物に食べられないようにしているのであって、人間が汚いと感じている有機物をエサにしている生きものが、海(干潟)には多くすんでいる。非常に目立たない生き物ではあるが、干潟をきれいに保つ重要な役割を果たしている生きものの一つである。